

三河商人道

PART
196



青年部は「委員会活動」



【会社・仕事への思い】

高校卒業後、デンソーの子会社で働いていたが、友人の影響で会社を辞め、食品業界へ転職した。食が好きだったのではなく、「社長になりたい」そのきっかけがたまたま食品だった。最初の1年間は親方の家に住み込みで修業した。27歳の時に岡崎に新規出店するという事で単身岡崎へ、営業所探しから一人で行った。平成8年3月稲熊町で電話1台からスタート、平成8年8月に大門へ移り、平成8年9月2日に工場が稼働した。通常、工場の可動まで3年かかる所を短期間で業績を上げた。42歳までは家にも帰れず、一日の睡眠時間が2~3時間という日が続いた。全身全霊、仕事に打ち込んだ。この仕事をやって良かったと思う瞬間は、社員やパートさんが行動を起こして結果が残せた時。営業で数字を上げるだけでなく、お客様に気に入っていただいた時。「おいしい」ではなく「また食べたい」が最高の誉め言葉。職人から商売人になったが、商売人から経営者になれる様に日々精進している。

【青年部に入会されたきっかけ】

岡崎給食(株)の井上君に紹介していただき入会した。青年部の印象は若手経営者の集まりというイメージで、当社のお客様がいるかなと思って入会した。

【思い出に残る青年部活動】

日々の委員会活動、例会まで持って行くプロセスがおもしろかった。岡崎で東海ブロック大会を開催した時は週2~3回保健所に張り付いて打合せをした。一番基本にしている考え方は「何をやるか」ではなく「誰とやるか」。気に入った人とやるのではなく、自分自身の捉え方を変えてどうやっていくか。様々な職種や立場の方がいる中で、相手に好きになっていただける様に自分を鍛えるには最適な環境。これは仕事にも結びついてくる。

【趣味など】

本を読む事が好き。ある方から小説から読むと良いと勧めていただいたのがきっかけ。時間が空いた時に喫茶店に入り、本を読む。そうする事で、頭を仕事から切り離す事ができる。

【青年部とは・・・】

青年部は委員会活動。楽しくするのも自分だし、つまらなくするのも自分。自分が周囲に合わせていける人間へと成長できる環境。切磋琢磨する事は良い事だが、仲よしグループにならない様に、間違っている事ははっきり間違っていると言わないといけない。言ってもらえない人もいけないし、言わない人もいけない。せっかく入会したのだから、人と人の接し方を学ぶ、それが一番の自己研鑽だと思う。人は人の中でしか磨けないからね。



取材担当/広報委員会
阿讃坊明孝、阿知和司、
大井教史、鈴木友則、
忠地朝隆、原知弘、
松本展和、柳澤友明、
山口純一